

令和2年度 第1回金沢市入札制度評価委員会の審議概要

開催日及び場所	令和2年7月3日(金) 金沢市役所 第1委員会室		
委員 (委員数5名) (出席数5名)	委員長 米田 満(公認会計士) 委員 松本 樹典(金沢大学教授) 委員 本間 学(金沢大学准教授) 委員 西村 督(金沢工業大学教授) 委員 栗田 真人(弁護士)		
次第	1 開会 2 報告案件 (1) 入札・契約制度の改正等について 3 審議案件 (1) 工事等に係る入札・契約手続きの運用状況等 ア 令和元年度の本市発注工事及び工事関連委託業務の結果について イ 入札参加資格停止の運用状況及び談合情報への対応状況について (2) 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯 (令和2年1月1日から令和2年3月31日) 4 閉会		
抽出案件	5件		
工事	制約付き一般競争入札	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 末町雨水管築造工事 ・ 四十万公民館建設工事(建築工事)
	指名競争入札	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元災53号準用河川伏見川災害復旧工事及び付帯工事
委託	制約付き一般競争入札	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5次安原異業種工業団地実施設計等業務委託
	指名競争入札	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度 臨海水質管理センター最初沈澱池ほか2箇所防食被覆実施設計業務委託
審議内容	別紙のとおり		
委員会による報告 又は意見の具申	令和元年度の発注工事等に係る入札・契約手続きの運用については、適正に行われていると判断する。		

(お問合せ) 〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
 金沢市総務局監理課 工事契約係
 電話:076-220-2101

委員からの意見は、概ね次のとおりであった。

現行の入札契約制度及び令和元年度の工事・委託業務の業者選考等は適正であることを確認した。

今年度からの入札契約制度の改正の影響も含め、引き続き、現行制度の検証を続けていくとともに、国・県や他都市の状況との比較検討を行いながら、不断の見直しを行うことで、より一層、公平・公正で透明性の高い入札契約制度の構築に努めてほしい。

意見の詳細は、次のとおり。

質 疑 ・ 意 見	応 答
<p>1 工事・委託業務に係る入札・契約手続きの運用状況等</p> <p>○ 入札・契約制度について、今年度から事務手続きの簡素化を実施しているが、どのような主旨なのか改めて確認したい。</p>	<p>・ 昨今の建設業における担い手不足を受け、働き方改革推進の一環として、生産性の向上や職場環境の改善を目的とした、受発注者双方の事務負担軽減を図る取り組みの一つである。入札契約事務において本来求められる公平性・透明性・信頼性、また現場管理や工物品質を担保しつつ、今後も不断の見直しに取り組んでいきたい。</p>
<p>2 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯について</p> <p>末町雨水管築造工事</p> <p>○ 入札参加者4者のうち2者が辞退し、落札者は予定価格付近で落札している。開札が1月ということで手持ち工事との関係からこのような結果に至ったと推察されるが、過去の同時期においても同様の傾向なのか。</p> <p>四十万公民館建設工事（建築工事）</p> <p>○ 本工事は落札に至るまでに2度入札不調となっているが、その原因と対策は。また、今後同様のケースが起きた場合の対応方針は。</p> <p>元災53号準用河川伏見川災害復旧工事及び付帯工事</p> <p>○ 本工事は25者指名の指名競争入札で、落札者を除く24者が辞退している。その原因をどう捉えているのか。</p> <p>第5次安原異業種工業団地実施設計等業務委託</p> <p>○ 本件の落札率は約95%と高くなっている。この要因についてどのように考えているのか。</p> <p>令和元年度 臨海水質管理センター最初沈澱池ほか2箇所防食被覆実施設計業務委託</p> <p>○ 8者指名の指名競争入札の案件で、5者が辞退、3者応札のうち、2者が予定価格と同額で入札しているが、業務の難易度が影響しているのか。</p>	<p>・ ご指摘のとおり、12月及び1月について過去の入札参加者を確認すると、参加者数が少なく、同様の傾向が見られる。</p> <p>・ 入札不調の際に辞退理由を確認したところ、東京オリンピックを控えて建設需要が旺盛で、資材価格や人件費が高騰しており、価格が合わないという理由であった。これを受け、設計担当課で実勢価格を調査し、その結果を設計に反映させた形で再度の発注を行い、今回落札に至ったものである。ただし、基本的には標準の設計積算にて適正な予定価格が設定されていると考えており、今回のような特殊ケースの場合には市場価格を踏まえた設計にて対応していきたい。</p> <p>・ 本工事は災害復旧工事という性質上、優先順位が非常に高くなり、手持ち工事との調整が必要になることに加え、現場が宅地に近接した急峻な崖地の河川内工事となり、施工条件が非常に悪いことから、応札が敬遠されたのではないかと推察している。</p> <p>・ 今回の委託業務では、入札参加資格要件において土地区画整理事業に係る設計の実績を求めるとともに、競争性確保の観点から、市内に営業所を有する業者の参加を可能としている。各社それぞれの事情もあり、結果として応札したのが3者で、比較的高い落札率に至ったものと考えている。</p> <p>・ 本業務は、稼働中の下水処理槽を停止させ、清掃された状態の現地を調査し、その結果に基づき防食被覆実施設計を行うものである。現地調査にあたっては、施設管理者と清掃業者との協議や足場・調査機器等の設置が必要となるほか、施工計画作成の際には施設の運転状況を考慮した工程表の作成を要することなど、業務の難易度が高いことから、応札意欲に影響したものと考えている。</p>